

P R E S E N T A T I O N

2015/11/6東京都環境局シンポジウム「海ごみ」問題を知っていますか？

「海ごみ」問題に関する 東京都の取組について

東京都環境局からのご説明

本日のご説明

- 1. 東京都の取組（全体像）**
- 2. 発生抑制対策の推進に向けて**

1. 東京都の取組（全体像）

● 2009年7月 「海岸漂着物処理推進法」 制定

- 目的：海岸における良好な景観及び環境を保全するため、
海岸漂着物の円滑な処理及び発生抑制を図る。

（地方公共団体の責務）基本理念にのっとり、海岸漂着物対策に関し、その地方公共団体の区域の自然的社会的条件に応じた施策を策定し及び実施する責務を有する。



① 回収・処理

島しょ地域※での地域計画を策定し、海岸管理者、地元自治体、都及びNPO等と連携した海岸漂着物の回収等の取組を推進中

※2013年7月「小笠原諸島における海岸漂着物対策推進計画」策定

2014年6月「伊豆諸島における海岸漂着物対策推進計画」策定

② 発生抑制対策

* 子供向け環境情報誌（エコチル）で「海ごみ」問題を掲載（2015年6月号）
都内23区小学生へ配布 http://www.ecochil.net/ecochil/images/bn_tokyo/tokyo_1506.pdf

2. 発生抑制対策の推進に向けて

● 2009年7月 「海岸漂着物処理推進法」

(海岸漂着物等の発生の効果的な抑制)

山から川、そして海へとつながる水の流れて通じて海岸に漂着するものであって、その発生が環境の保全に対する国民の意識を反映した一面を有するものであることを踏まえ、海岸漂着物等に関する問題が海岸を有する地域のみならず、すべての地域において共通の課題であるとの認識に立って、海岸漂着物等の発生の効果的な抑制が図られるように十分配慮されたものでなければならぬ。



どうして海岸にごみがたまるのでしょうか

ポイ捨てされたごみや屋外に放置されたごみは、雨や風によって河川に入り、海に流れ出します。このほか漁業のごみや船舶からのごみなど海上で発生するごみもあります。こうしたごみは海の流れや風の力によって海岸にたどり着きます。



(環境省パンフレット)

2. 発生抑制対策の推進に向けて

- 東京にも「東京湾」という「海」があり、東京湾に通じる多くの「河川」がある。



※荒川クリーンエイド2014調査結果

散乱ごみの約8割が、飲食の容器包装

→拾われなければ、いずれは外洋に流れ出て「海ごみ」に。

- ・ 東京港の清掃活動（東京都港湾局）
- ・ 河川の清掃活動（東京都建設局）



<http://www.tptc.co.jp/cms/corporate/jp/pages/harbor/cleanup/01.pdf>

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ichiken/pdf/suimenseisou-hani.pdf>

2. 発生抑制対策の推進に向けて

＜東京都の河川清掃＞ ＊建設局

- ・河川水面清掃は、東京都の代表的な河川である隅田川や神田川などの30河川で毎日、実施しています。
 - ・ 同じ場所：週1～2回清掃
 - ・ 年間回収量約370t (H26年度)

清掃船の就航が可能な特別区域内のうち、国が直接管理している区間を除いた河川管理区域の水面で、延長は約107キロメートルに及びます。



2. 発生抑制対策の推進に向けて

＜東京都の東京港清掃＞ * 港湾局

- ・ 東京湾（港湾区域）約5,200haを、6隻の清掃船で、毎日、海上や運河に浮遊する塵の収集作業を行っています。
- ・ エリア毎に曜日を決めて実施
- ・ 年間回収量約2,500m³(H26年度)



清掃船エリアマップ



- | | | |
|-------|-------|-------|
| 第一清掃丸 | 第三清掃丸 | 第六清掃丸 |
| 第二清掃丸 | 第五清掃丸 | 第七清掃丸 |

<http://www.tptc.co.jp/cms/corporate/jp/pages/harbor/cleanup/01.pdf>

2. 発生抑制対策の推進に向けて

● NPO等が実施する清掃活動への参加

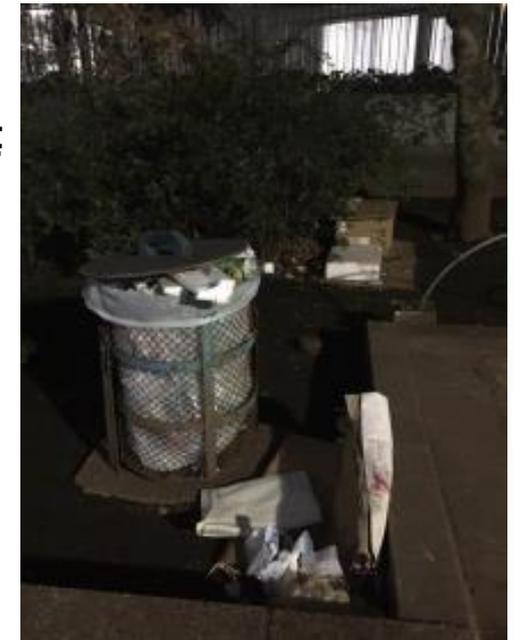
● 改めて、私たちの日常生活を見直してみる**ことが重要に。**

「使い捨て型ライフスタイルの見直し」や「街の美化対策」、「日常生活で使用するモノ（素材）の見直し」等
→「海ごみ」の発生抑制対策として大きな意義

（“元を断つ”）



(2015/11/6シンポジウム 環境省説明資料より)



* 「河川」が身近にないエリアは、

「海ごみ」問題とは関係はない??

- ・ 川につながっている水路や道路側溝、雨水ます等を通じて、海に流れ出ていくことも。
- ・ 釣りや海岸でのレジャー、漁業や船舶からのごみなど、海上・海岸で発生するごみも。

2. 発生抑制対策の推進に向けて

● 「マイクロプラスチック」は身近な運河にも存在

* 2015年1月、京浜運河で試料を採取

2ノットの速さで運行してもらいながら、
「10分間走ったあと、引き上げて試料採取」という作業を2回繰り返し。



2. 発生抑制対策の推進に向けて

- **日本の人口の1割・巨大な市街地を抱える東京としても、世界的な問題への対応を。**
 - * **東京も世界の海ごみ問題に関連している。**
 - * **遠い世界の話ではない。**
- ✓ **「現状」や「身近でできる取組」等の普及啓発から開始**
 - ・ 「海ごみ問題の現状」や「東京にも“海”があること」「東京湾から外洋にごみ流れ出ていくこと」等について多くの方々に知っていただく。
 - ・ 使い捨て型ライフスタイルの見直しや、街中・河川・海岸でのごみの管理など、「自分たちが身近で取り組める対策」等をご紹介していく。
- * **国、都内区市町村、都民、NPO/NGO、専門家、企業や関係部署等と連携しながら、特に本土部での発生抑制対策の推進を強化**